

○ 本校の概要

Table with 2 columns: 概要 (Overview) and 令和7年度 大田区立道塚小学校 自己評価 報告書. Contains school statistics and the title.

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

Main evaluation table with columns: 大項目 (Major Item), 方向性 (Direction), 取組内容 (Activities), 取組指標 (Indicators), 取組評価 (Evaluation), 目標に対する成果指標 (Outcome Indicators), 成果評価 (Results), これまでの取組今後の改善策 (Past Activities/Future Improvements), 学校関係者記入欄 (Stakeholder Comments).

<p>た 自 め 分 め れ 目 れ 学 し 標 ば び く を い き 支 置 援 し き ま 活 す 動 と 性 生 育</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。</p>	<p>①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導員との連携等を行っている。 28. 1+65. 2=81. 3</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。 43. 8+56. 6=100%</p> <p>③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。 34. 8+66. 2=100%</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満の教員が回答した。 2: 60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3 4 4 4</p>	<p>☆児童アンケート「学校生活は、楽しいですか」の質問項目に対する回答 4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答80%未満70%以上 2: 肯定的回答70%未満 50. 2+45. 3=95. 5%</p>	<p>＜これまでの取組＞ ①特別支援教室巡回指導員と担任が連携を密にして当該児童に対する対応について共有している。 ②いじめアンケート結果を踏まえ、面接をするなど、早期発見・早期対応に努めてきた。 ③スクールカウンセラーが「相談室だより」を発行し、気軽に安心して相談できる事業であることを児童や保護者へ発信している。 ＜今後の改善案＞ ①特別支援教室巡回指導員がもつ配慮の必要性と児童に対する知識・技能、対処法等を本校教職員にも伝える機会をもつ。 ②発達性・情緒障害特別支援学級が開設されるので、特待生もつ児童との接し方や周囲の児童への指導のあり方等、担当教員との連携を密にしていきたい。 ③いじめ対策委員会より活性化させ、組織として対応していく。 ④児童・生徒の相談や相談のサインを見逃さずスクールカウンセラーに繋いでいく。</p> <p>A 7 B 5 C 0 D 1</p> <p>「学校生活は楽しいですか」の質問項目に90%以上の児童が肯定的な回答をしたということは、学校が子どもたちにとって安心できる場所であることと捉えられます。先方より良い教育環境づくりに尽力された結果だと感じます。</p> <p>「授業も体も時間も子どもたちの元気で充実している」というのが、児童や保護者から寄せられている声です。</p> <p>「担任の先生と巡回指導員が連携して対応にあたっている。子ども達の可能性を信じて、励まして、寄り添ってほしいです。」</p> <p>「昨年度の改善策から今年度も、新しい取り組みが開始されたのかかわらない、ボランティアで授業に参入する教員の子がわかることが多く、先生によってこれに共有でき、ボランティア参加の意味を感じる。」</p> <p>「カウンセラーやソーシャルワーカーとの連携が不明確で、判断出来ません。」</p>
<p>安全柔 心な 教育 環境 をつ くり ま す</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。 90. 4+69. 6=100%</p> <p>②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。 60. 9+39. 1=100%</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4 4 4 4</p>	<p>☆保護者アンケート「学校は子供の安全に留意して施設・設備の整備をしている。」の質問項目に対する回答 4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答80%未満70%以上 2: 肯定的回答70%未満 99. 5+1=100%</p>	<p>＜これまでの取組＞ ①担任とスクールサポーターとの打合せを定期的に実施し、地域の特色を踏まえた学習ができています。また、保護者ボランティアを募り、安全面を考慮した学習環境を整えてきました。施設等の改修・改善をスムーズに行ってきた。 ②消防署との連携として燃焼体験や地震体験を教育課程に位置づけ取り組んでいます。 ＜今後の改善案＞ ①早めの計画立案をどのようなサポートが必要としているか確認し、スクールサポーターとの連携を密に行っていく。 ②災害時における対応について、他の施設（放課後こども教室や児童館等）、施設との連携を密にしておく。</p> <p>A 6 B 5 C 1 D 1</p> <p>「担任が授業に込めた意図や思いを的確に汲み取り、地域資源を積極的に授業へ落とし込めるコーディネーターを自覚したいと思えます。学校と地域の専門性を活かした高品質な学習を心掛けて、CSを基盤とした特色ある授業を推進していきます。また、学校の強みに合わせて、私たちも学び、進化し続ける組織でありたいと考えています。」</p> <p>「計画立案時点から準備・スクラボを交わらせることで、学校・先生方だけでなく児童も主体的に準備・スクラボを交わらせることがわがからなかった。」</p> <p>「担任の先生とスクールサポーターは定期的に相談しながら計画立案し進められているが、さらにスクールサポーターの厚みを増やすことにより、学習環境を整えていくことが必要です。」</p> <p>「先生方に計画を早く立ててあげて欲しいです。急な大人の仕事が多すぎて準備が追いつかないです。」</p> <p>「スクールサポーターが児童役として大きな役割を担っているのがわかり、反応、やはり学校と関係機関との連携は欠かせないのではと思います。」</p> <p>「スクラボと児童との連携も必要だと思います。」</p>
<p>学地学 域校 校を コ・目 ミ家 と庭 7ニ ま地 す域 の核 連 携し て協 働し よる</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。 39. 1+60. 9=100%</p> <p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全確保に係る取組を地域の協力により実施している。 39. 1+60. 9=100%</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。 26. 1+60. 9=87%</p> <p>④日常の教育活動を学校だより、学級だより、HP等で進んで発信している。 59. 1+60. 9=100%</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4 4 4 4</p>	<p>☆保護者アンケート「学校は、保護者や地域と連携しながら教育活動をする努力をしている。」の質問項目に対する回答 4: 肯定的回答90%以上 3: 肯定的回答80%未満70%以上 2: 肯定的回答70%未満 36+57=92%</p>	<p>＜これまでの取組＞ ①学校運営協議会を定期的に開催し、地域と学校の情報交換や行事の連携の密に行ってきた。地域やPTA等の取組として生み出された様々な活動や、スクールサポーターの協力による「おたけの未来づくり」や「総合的な学習の時間」などでの地域施設との連携やアウトリーチ活動などがあがり、児童・生徒の成長に寄与している。 ②児童・生徒が中心に登下校の見守りをしている。地域の協働により、近隣の公園やマンション等を定期的に生活指導部が巡回している。 ③体育・保健指導や地域公開講座（認知症ボランティア、病気の予防）や生涯学習地区公開講座、セーフティ教室（保護者向け情報モラル講座）を計画して行ってきた。 ④日常の出来事やHPで発信してきた。また、学校だよりやPTAだよりに掲載された。また、地域やPTAとの連携を密に行ってきた。 ⑤地域やPTAとの連携を密に行ってきた。また、地域やPTAとの連携を密に行ってきた。 ＜今後の改善案＞ ①様々な地域行事へ教職員も参加しやすくなるような仕組みを整える。 ②地域やPTAとの連携についてこれからは、より積極的に連携していき、大田区へも積極的に参加していきたい。 ③もっと多くの保護者に参加してもらい、より多くの保護者や関係機関と連携していきたい。 ④データが配られたおたけについて、アプリの通知がないと条件がないという点の改善が、活動の進捗と保護者への共有が重要である。保護者への共有が重要である。保護者への共有が重要である。</p> <p>A 8 B 5 C 0 D 0</p> <p>「引き続き何卒よろしくお願ひします。」</p> <p>「学校が地域コミュニティの核となるためには、保護者参加の促進が不可欠だと考えます。ここでは、公開講座への保護者参加についての改善策が検討されていますが、授業や行事への参加は、保護者参加の促進が不可欠だと考えます。学校公開には多くの保護者参加が望まれますが、保護者参加の促進は一部に留まっています。「見に来るが、協力しない」という状況が見受けられます。参加が「我が子の前向きな成長」という精神的強さ、学校サービス提供の場と捉えられ、保護者も参加しないという状況です。その結果、主体的な参加を促すことが必要だと考えます。保護者に子どもを共に育てるという意識を持ってもらうことも課題であると捉えられます。」</p> <p>「地域との連携はよくできていると思う。家庭、保護者の参加は継続的な課題」</p> <p>「コミュニティの中心として機能していると感じる。」</p> <p>「学校運営協議会では、活発な意見交換ができています。地域の協力者として、さらに先生をサポートし、地域に根付いた学習ができるよう努めたい。」</p> <p>「運営協議会も、もう一歩踏み込んだ議論ができるといいですね。」</p> <p>「これまでの歴史で学校運営協議会も軌道に乗ってはいない。保護者も、保護者の時間・労力がある限り、アウトリーチ等、正・向上に繋げられる条件があればと思う。今年度の認知症の講習には毎年より保護者の参加が多かった。関心の差なのか他に理由があるのかわからないが、」</p> <p>「学校が中心となるイベントの開催。地域行事を告知するだけでなく、共創していく仕組みが必要。」</p> <p>「学校の情報発信については、これまで以上に向上させる必要があるが、充実した取組ができるといいかかっています。」</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す